



園だより



令和2年1月29日

佛教大学附属幼稚園



「こころの入れ替え」

園長 田中典彦

新しい年を迎えたと思ったら、もうすでに一ヶ月が過ぎ去りました。大寒といって一年でもっとも寒い季節のようですが、何かあったかい日が続いているように感じます。やはり、言われているように地球温暖化なのでしょう。今年雪がないねー、面白くないよーという子どもたちの声も聞こえてきました。そういえばあちらこちらから梅ばかりかタンポポやツツジの花が咲いている程の暖冬です。

先月の園だよりに「天下和順」と書きました。「天下、すなわちこの世界が和やかでその法則に順じてくれますように」という願いでした。太陽には公道といって、定まった通り道があり、お月様には満ち欠けの法則があり、海には満潮干潮という満ち引きのきまりがあります。これらの自然にみられる法則はインドの言葉でリタと言われました。そしてわたしたちの国に顕著に感じ取れる季節は同じように法則を持っているものとして捉えられてリツと呼ばれています。これらが穏やかにそのとおりであることが、人間が安穩に生きてゆくのに大切であることからそれを願うのです。ですから、寒くなくてはならないときには寒くなくては自然ではないのです。

人間はこの自然の中でいろいろな営みを繰り返してきたのです。先日新聞に「寒造りや寒干し、寒ざらしなど、冷気による味の仕込みに先人の知恵をみる。寒稽古、寒念仏、寒弾き…武道や仏道修行、芸事も寒中を重んじてきた。寒さは自然や人の心身を引き締め、自省の念をもたらすのかもしれない」とありました。寒い冬の季節だからこぞ築かれてきた人間の生き方があり、文化があることがわかります。

自然にこのような法則性があるのと同じように、人間には人として生きてゆく上で法則のようなものがあるでしょう。それがダルマ(法)と言われているものなのです。それを人間の生きる道としての真理であるとして教えているのが仏教なのです。2月15日はブツダ(釈尊)が入滅された日として「涅槃会」がつとめられます。涅槃に入る前にブツダが弟子たちに諭したとされているのが「自燈明、法燈明」(自らをともしびとし、真理をともしびとして生きる)あるいは「自洲法洲」(自己をよりどころとし、真理をよりどころとして生きる)であります。そして加えて、「精進努力に生きよ」ということであつたと伝えられています。

今日は子どもたちのクラスに招かれてカレーを食べながらいろんな話をしました。「もうすぐ豆まきをするよねー。わたし、豆をまくのは好きだけど、歳の数だけ食べるのってきらい」「僕は今度は五つだっけ、パパは一、ママは一?」「鬼はそと一、福はうち一って言うんだよねー、あれどんなこと?」詳しいことは家で聞いてねって逃げておきました。

江戸時代末期を法然上人の念仏の教えの中に生きていた紀州に聖・徳本行者と呼ばれる人がいました。彼が節分に詠んだとされている詩

鬼や蛇をかくまひ置きて何にする

あみだぶつぶつ入り替えにせよ

欲をむさぼる心、怒り腹立ちの心、道理に暗い心を自分の内にかくまっておかないで、ののさまと入れ替えして生きて行く中に幸せがあるということです。自分を本当のよりどころとするために、今年は子どもさんと一緒に大きな声で入れ替えをしてみてください。